

明治十二年二月



續西史綱紀

版權
所有

東京師範學校

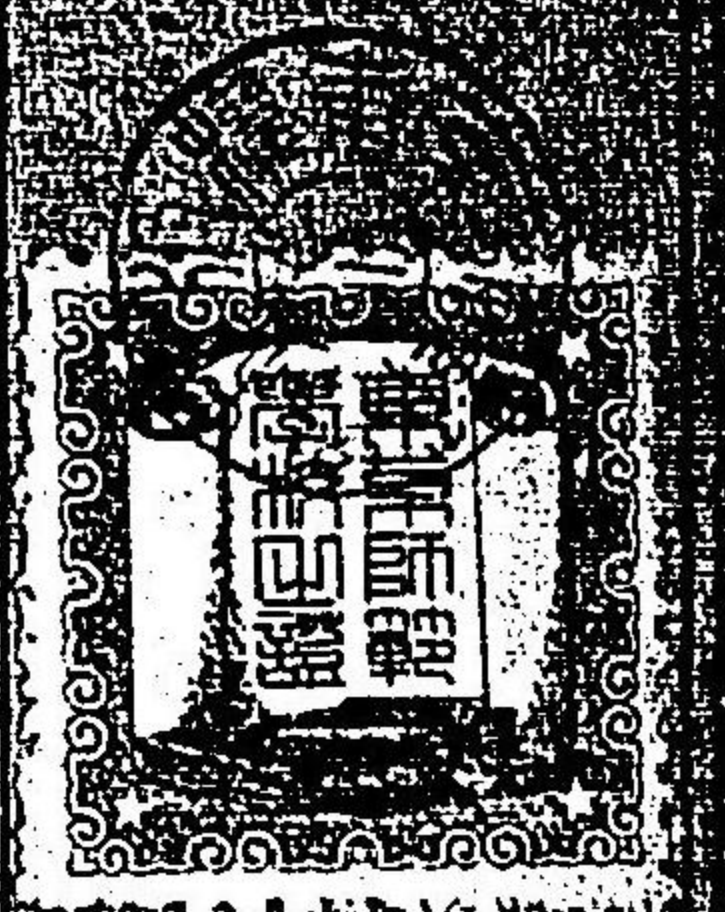


叙

塔爾時

萬國之附于地上也。棋布星羅。疆宇
交錯。唯形勢有不同。故伺隙而起。爭地
而鬪。至流血千里。勝敗始決。此亦天道
非降之機。人事得失之林也。世之譯西
史者。繁冗瑣碎。少適普通學科者。獨
此篇纂述。舉彼洲之近事。始于哥里

明治十二年一月



續西史綱紀

版權
所有

東京師範學校



叙

塔爾

萬國之附于地上也。棋布星羅。疆宇
交錯。唯形勢有不同。故伺隙而起。爭地
而鬪。至流血千里。勝敗始決。此亦天道
非降之機。人事得失之林也。世之譯西
史者。繁冗瑣碎。少適普通學科者。獨
此篇纂述。舉彼洲之近事。始于哥里

續西史綱紀

東京師範學校

米之亂。終乎宇佛之戰。揭其大綱。而略
細目。次叙簡明。炳如燧犀。澹曰。當局
不足。傍觀有餘。至如此篇所載。盛衰
興亡之跡。則亦可以為千秋之鑑戒矣。
明治十一年天長節議

東京

增田貢



大島信書



小引

維爾遜氏ノ西史綱紀ハ拿破崙三世ノ帝タルニ
至テ止ム爾來宇内各國ノ事蹟瞻乎トシテ知ル
ニ由ナシ近世史ノ翻譯ヲ經ル者世ニ乏カラス
ト雖モ或ハ繁ニ涉リ或ハ簡ニ失シ普通ノ史料
ニ適フ能ハス故ニ今千八百七十二年米國刊行
ノ撒禮麥爾氏萬國史ヲ採テ之カ基礎トナシ旁
ヲ群乘ヲ參酌シテ一書ヲ作り名テ續西史綱紀
ト曰フ千八百五十四年哥里米ノ戰ニ起テ千八

百七十年拿破佛ノ戰ニ終リ其間儘各國ノ近況ヲ
 臚載ス尚ホ事蹟ノ較著ナル者ヲ得ルニ隨ヒ續
 ヲ之ヲ修メントス庶幾クハ讀者ヲシテ近事ノ
 一斑ヲ窺ヒ以テ史料ヲ全フスルヲ得セシメンヲ
 其地名人名等ハ一ニ正編ニ倣テ左右ニ單雙柱
 ヲ施シ里數ノ如キモ亦英制ヲ循用ス

明治十一年十一月

編者識

續西史綱紀目錄

卷一

哥里米ノ亂

以太利ノ合同

連國ノ戰

七週戰

東方ノ英領

亞細亞ノ近況

卷二

亞米利加ノ近況

佛蘭西帝國ノ衰滅

魯西亞ノ近事

英國ノ近事

續西史綱紀卷之一

保田久成纂譯

哥里米ノ亂

魯西亞ハ彼得大帝崛起セシヨリ務テ土宇ヲ開
 廓セント欲シ封豕修蛇漸ク東南ヲ蠶食ス然レ
 氏其封土一隅ニ僻在シ未タ衝ヲ中原ニ争フニ
 足ラス獨土耳其ハ其國二洲ニ分布シテ膏腴ノ
 壤ヲ擅ニシ形便ノ地ニ據ル是ヲ以テ歐洲ヲ席

卷シ各國ヲ駕馭セント欲セハ此地ヲ兼併シテ其咽吭ヲ拒スルニ若カス故ニ魯帝ノ土國ニ聳頤スル茲ニ數百年尼哥勞帝ノ時ニ至テ歐洲各國ノ凋弊ニ乘シ急ニ其志ヲ逞フセント欲シ日ニ開戦ノ口實ヲ覓メテ遂ニ耶路撒冷教徒ノ爭亂ヨリ口ヲ法教ノ保護ニ藉リ漸ク其内事ニ干渉セントス此乃チ哥里米戰亂ノ由テ起ル所ナリ

耶路撒冷ノ地ハ希臘教徒及ヒ耶蕪舊教徒ノ寺

院アリ共ニ法教ヲ講ス而シテ此二教徒ハ其相疾惡スル恰モ仇敵ノ如シ千八百五十一年希臘教徒其暴威ヲ逞フシ耶蕪舊教ノ徒ヲ逐フ舊教ノ徒援テ佛蘭西ニ乞フ佛國旨ヲ土帝ニ致シ其審理ヲ勸ム是ニ於テ土帝委員ヲ命シ兩教ノ分爭ヲ剖判セシム魯帝之ヲ聞テ土國ト爭端ヲ開クノ口實アルヲ悦フ然レ又謂ヘラク土帝若シ公平ノ審判ヲナサハ此爭頓ニ息ムヘク且希臘教徒ヲ寬待セハ其教徒等漸ク土國ノ政ニ服シ

魯國ノ保護ヲ仰カサルニ至ルヘシト因テ暴激
 ノ論ヲ主張シ百方土國ノ審理ヲ沮害セント欲
 ス
 千八百五十三年ノ初尼哥勞帝ハ海陸ノ大軍ヲ
 西巴士多卜魯ニ點閱シプリンスメンシコフニ
 要請ノ文書ヲ齎シ君士但丁府ニ赴テ土廷ト商
 議セシム魯廷ノ望ム所ハ翅ニ叙利亞及ヒ巴列
 士底ノ靈地管束ノ權ヲ増スノミナラス土國ノ
 諸州ニ住メル一千萬餘ノ希臘教徒ヲ保護スル

ノ特權ヲ得ントスルニ在リ畢竟此要請ノ侮慢
 ヲ極メシハ藉テ以テ戰爭ノ口實ト為サント欲
 スルニ似タリ此際土帝ハ斷然其請ニ從ハス故
 ニメンシコフハ竊ニ其計ノ行ハルヲ喜ヒ君
 士但丁府ヲ去リ終ニ土國ト交ヲ絶ツ而シテ數
 週ノ後魯軍ハ摩拉達維及ヒ襪拉幾ニ占據シテ
 實ニ其監護ヲ為セリ
 又尼哥勞帝ノ土廷ニ向テ敵讐ノ情ヲ起セシ一
 原因ハロードストラスナルドレッドクリフヲ懲

怨スルニ在リ是人ハ土廷ノ會議ニ參シテ其權
勢ヲ占メ毎ニ魯國欽差ノ舉動ヲ阻碍ス故ニ魯
帝甚ク之ヲ快トセス稱シテ英吉利支丹ト曰ヘ
リ然レモ其權勢アル馬他ヨリ英ノ海軍ヲ徵シ
且其毅然撓マサルヤ能ク君士但丁府ノ驚慌ヲ
遏メ土廷ノ宰執ヲシテ斷然魯帝ノ不正ナル請
求ヲ峻拒セシム其土國ニ功アル實ニ僅少ナラ
サルナリ此際奧學英佛ノ使臣維也納ニ會議シ
魯土兩國ノ交際ヲ彌縫シ其平和ヲ保タシメン

ト謀レリ

先是魯帝ハ英國政府ニ密議スルニ歐洲ノ病夫
ヲ瘡シ共ニ其地ヲ分ツヘキヲ以テス是乃啗ハ
シタルニ大利ヲ以テシ其驩心ヲ結ヒ之ヲシテ
吾國ニ聯合セシメント欲スレハナリ英國政府
ハ固ク其說ヲ拒ニ歐洲ノ諸大國ト倍其親交ヲ
固フス殊ニ佛國ト最深ク相結ヒ以テ魯國ノ攻
撃ニ敵セントス當時拿破崙三世ハ新ニ帝位ヲ
踐ニ其國民ノ兵威ニ誇ル性アルヲ察シ務テ其

情好ニ從テ人望ヲ收メント欲ス且謂ヘラク巳ノ位ヲ固クスルノ長計ハ獨英國ト相親△ニ在リト因テ東邦疑問ニ就テ自國ノ政畧ヲ捨テ英國ノ政畧ニ從ヒ之ト訂盟スルニ至レリ

斯テ魯帝ハ其將ゴルチヤコフニ數萬ノ兵ヲ附シ千八百五十三年七月三日進テプルートル河ヲ踰ヘ摩襪二州ニ據ラシメ書ヲ土帝ニ寄セ土國現ニ魯國ノ請ヲ允スニ至ル迄ハ此二州ヲ以テ質トナスヘキヲ告ク又維也納會議ノ列國ハ相

與ニカヲ媾和ニ盡スト雖ル魯國ハ固執シテ其言ヲ容レズ因テ土國政府ハ使ヲ魯將ノ營ニ遣ハシ謂テ曰ク魯兵若シ十月二十三日ニ至ル迄二州ノ地ヲ退カサレハ投スルニ戰書ヲ以テスバシト魯將ハ土國ノ日ニ表弊シ兵勢ノ振ハサルヲ見テ其期ニ至レテ肯テ兵ヲ撤セズ是ニ於テ土帝遂ニ戰ヲ宣ス其將ヲ一マルハシヤ急ニ進テ大惱河ヲ渡リ十一月四日ヲルテニッサアニ戰テ魯兵ヲ破ル一月ニ至テ魯兵土軍ヲカラフ

ツトニ攻撃スル四日終ニ敗レテ退ク先是十一月三十日魯ノ一幫船猝ニ西巴士多ト魯ヲ發シテシノープ港ニ在ル土ノ船隊ヲ破リ其府邑ヲ砲撃ス土耳其人死スル者四千時ニ倫敦及ヒ巴里ノ朝ヨリ書ヲ魯帝ニ贈テ大惱河邊ノ兵ヲ罷メンコトヲ要メ其請ヲ拒ミ或ハ答ヘサルアラハ戰端ト看做スヘキヲ以テス然レモ魯帝ハ毫モ之ニ應セス是ニ於テ媾和ノ望全ク竭キ英佛互ニ訂盟シテ土耳其ト相結ヒ魯國ニ向テ戰ヲ宣

ス時ニ千八百五十四年三月ナリ四月十一日魯帝モ亦戰ヲ宣シプリンスパスキノウツチ大軍ヲ帥キテ西里斯的黎亞ノ堅城ヲ攻ム土耳其人城ニ嬰テ固守シ僅ニ月餘ニシテ其圍ヲ解カシム其雄豪精悍ナル衆人意料ノ外ニ出タリ魯軍又ジウルゼウオニ敗績シ終ニ下大惱ノミナラス摩拉達維、襪羅幾ノ二州ヲモ亦之ヲ棄ルニ至レリ

魯國ハ摩襪二州ヲ棄テ戰ノ原因既ニ除去セシ

カバ英佛ハ魯國ト戦ヲ息ムルモ敢テ不可ナルニ非ス然レモ二國ハ斷然海港ト廣大ナル武庫ヲ防護スル西巴士多ト魯ノ堅城ヲ破壊シ魯帝ヲシテ將來ノ侵伐ニ其術ヲ失ハシメント欲ス因テ同盟ノ兵海路哥里米ニ進ム此地方ニ住メル韃靼人ハ魯國ノ管理ニ服スト雖モ其同宗タル回教徒ニ對シテ絶テ敵讐ノ情ヲ見ハサス却テ即時ニ糧食ヲ給シ駝獸ヲ鬻テ軍用ニ供セリ九月二十日アルマ河ノ上方高處ニ備ヘタルプ

リンスメンレコフノ守ル所ノ諸砦ヲ攻テ之ヲ陷ル同盟ノ陸軍勝ニ乘シテ進ニ海軍ト合シテバラクラバノ港ニ占據シ進テ西巴士多ト魯ヲ圍ムコロ子ルトミルベンカヲ奮テ此府ヲ固守シ扞禦殆ト一年

十月二十五日バラクラバノ戦ニ於テ特ニ記臆スヘキハ英ノ騎兵一隊總督ノ號令ニ誤マラレ輕進シテ山谷ノ間ニ陥リ四面敵丸ヲ受ケ奮撃突戦スト雖モ隊中三分ノ二ハ終ニ犠牲トナル

ニ至レリ此戰捷ノ魯軍ニ歸スルヤ西巴士多ト
魯城中ノ將校等忽其勇氣ヲ懸シ其捍禦倍久シ
キニ堪ントス然レモ十一月五日インケルマン
ノ役ニ於テハ精銳ノ魯兵英軍ヲ進擊シテ却テ
為ニ退ケラル斯テ十一月十四日颶風黒海ニ起
テ其狀極メテ烈シク船舶ヲ毀損シ軍須ヲ失フ
勝テ計フヘカラス又陸地ニ於テモ帳幕皆破碎
シテ四方ニ散亂シ雨雪霏々寒氣俄ニ凜冽ヲ極
ム又同盟ノ軍疾病ニ困ムテ戰爭ノ痛苦ヨリモ

甚シク殊ニ英軍ハ輜重軍醫ノ制度全ク其宜ヲ
得サルヨリ大ニ其艱難ヲ増シ或ハ露臥シテ風
霜ニ苦ミ或ハ數日ヲ經テ猶其創ヲ裹ム能ハス
衣糧藥餌ノ供給近ク數里ノ内ニ在リト雖モ疾
ク軍營ニ搬運セス空ク飢寒痛苦ニ迫リ斃ル、
者少カラス故ニ英人等軍制ノ紊亂ヲ怒ラサル
者ナク終ニロイドアベルヂインノ相位ヲ停メ
ロイドパルメルストン責任ノ上相トナルニ至
レリ此際英國ノ一少婦ニフロレンス、ナイチン

ゲールト云フ者アリ同志ノ徒ト患難ヲ共ニシテ速ク哥里米ノ兵病院ニ赴キ躬自ラ病卒ヲ看護シテ甦勉倦マス此仁慈ノ躉舉ニ賴テ不幸ナル兵卒等大ニ其痛苦ヲ慰藉シ其聲譽甚高シト云フ

爰ニ又英佛ノ船隊ハ千八百五十四年九月遠ク

大平洋ニ泛テ堪察加ノペトロポウロウスキ港

ヲ襲撃シ或ハ波羅的海及ヒ北氷洋ニ侵入セリ

然レモ其獲ル所ハ僅ニ阿蘭島ノ堅岩ボマルシ

ンドヲ抜キシノミニシテ其他ハ海軍ノ需用品ヲ焚燒スル等ノ事ニ過キス到底此海戦ハ赫々ノ功ヲ奏スルニ至ラス千八百五十四年ヨリ千八百五十五年ノ初ニ當リ英佛又澳地利撒丁ト聯合ヲ約シ撒丁國ハ精兵一萬五千人ヲ哥里米ニ發遣セリ蓋撒丁王ウクトルエマニエル二世ハ從來民權主唱ノ名ヲ負ヒ以テ以大利全國ノ望ヲ收メント欲ス故ニ魯土ノ分争ニ際シ自ラ英佛ノ強國ニ結テ後事ヲ處スルノ便ニ供セシ

トス時ニ魯帝暴ニ殂シ千八百五十五年三月二日嗣子亞歷
 山二世繼テ立チ新ニ講和ノ望ヲ起セリ然レ氏
 同盟諸國ハ久ク異常ノ攻撃ニ抵敵セシ西巴士
 多ト魯ノ堅城ヲ拔クヲ以テ特ニ其榮譽ト為シ
 曾テ兵ヲ弭ムルノ意ナク更ニ魯軍ノ糧道ヲ斷
 ント欲シ英ノ船艦アソフ亞速海ニ入テケルチ及ヒエ
 ニカーレヲ奪ヒ許多ノ軍器糧食ヲ焚滅ス爾來
 哥里米ノ魯軍頗ル窘困ヲ極メ加之八月十六日
 ヨリ九月八日ニ至ル迄砲擊暫モ絶ヘス終ニ西

巴士多ト魯ノ金城モ碎片堆積ノ場トナリ佛兵
 ハマラコフノ堅砦ヲ攻テ之ヲ拔キ英兵ハレダ
 シテ攻撃シテ未タ全ク陥ラサリシガプリンス
 コルチヤコフハ此地ノ終ニ守ル能ハサルヲ察
 シ兵ヲ斂メテ北方ノ保砦ニ退キ港内ノ船舶ハ
 悉ク之ヲ海底ニ沈メタリ此際魯兵ハ土耳其ト
 高加索山外ノ諸州ニ戰ヒ儘捷利ヲ獲シカハ稍
 西巴士多ト魯ノ敗ヲ償フト謂フヘシ
 初奧國ハ交戰國ノ間ヲ彌縫シテ務テ講和ヲ圖

ルト雖氏嘗テ其意ヲ得ル能ハサリシガ尼哥勞
 帝新ニ殂シ亞歷山帝踐祚シ西巴士多卜魯ノ堅
 城其守ヲ失ヒシ以來ハ魯國政府ノ稍和議ヲ欲
 スルノ意アルヲ察シ其機ニ投シテ終ニ拍和ノ
 事ヲ行ヒ千八百五十五年ノ末英魯佛撒土ノ宰
 相等聖彼得堡ニ相會シテ豫定和條ニ鈐印シ千
 八百五十六年三月三十日巴里ニ於テ之ヲ申固
 ス是ニ於テ土耳其ハ歐洲各國ノ班中ニ入テ獨
 立ノ權理ヲ保護スルノ約ヲ得克服ノ地ハ互ニ

其本主ニ還シ多惱河及ヒ黑海ハ自由ニ萬國ノ
 交易ヲ許シ唯軍艦ハ黑海ニ入ルヲ許サス又土
 魯兩國ハ共ニ其沿岸ニ海軍造兵場ヲ設ルヲ禁
 シ西巴士多卜魯ノ城砦ハ全ク之ヲ破壞シテ再
 ヒ築造スヘカラサラシメ魯國ニ於テ土國ノ希
 臘教徒ヲ保護スヘキ權ナキヲ定メ魯佛英ノ三
 國ハ別ニ條約ヲ結テ阿蘭島ヲ中立ノ地ト為シ
 將來魯國ニ於テ城塞ヲ修築スルヲ許サス塞爾
 維ハ土耳其ノ藩屬タルヲ免レスト雖氏又五大

國ノ保護ヲ受ル者トス越テ數歲摩拉達維襪羅
 幾ノ二州崛起シテ殆ト獨立ノ状ヲ為シ合稱シ
 テ羅馬尼ト曰フ其君長ハ人民ノ推選ニメ土帝
 ノ許可ヲ得ヘキニ定ム千八百五十九年アレキ
 サンドル、ジヨン、クウザ二州ニ君臨シ六年ヲ閱
 テ内亂起リクウザ公其位ヲ黜ケラル二州ノ人
 民更ニ孛國ノ皇族ホーヘンソルレルン家ノ查
 爾斯公ヲ迎立シテ君トナス方今ノ君主是ナリ
 以大利ノ合同

千八百五十六年巴里ノ會議ニ於テ歐洲一般ノ
 大事務ヲ商議セシ際奧佛ノ兵久ク教皇領ニ屯
 據スルノ極テ其當ヲ失フヲ論セリ千八百四十
 九年以降佛兵ハ羅馬ヲ占メ奧軍ハアペンナイ
 シス山北ノ諸州所謂教皇監督ノ地ニ據レリ而
 シテ二國互ニ中央以大利ニ擅制ノ權ヲ占メン
 一ヲ妬害シ容易ニ其兵ヲ招回スル能ハス抑奧
 國ハ實ニ撒丁ノ外以大利ノ各州ニ於テ既ニ管
 理ノ權ヲ行ヒ又那不列ノ自由憲法ハ奧國ノ關

涉ニ由テ顛覆シ多^{トスカイ}加納巴馬^{バルマ}摩德拿ノ公國ハ
 軍ノ據守スル所トナリ而シテ^{モテ}奧國ノ將帥等ハ
 諸國ノ成法ヲ顧ミズ擅ニ政權ヲ行フ一兵權ヲ
 行フニ異ナラス被疑者ハマンチュア或ハクフス
 タインノ城塞ニ流謫セラレ加之フランシズ、ジ
 ヨウセフ帝ノ名ト權トヲ以テ死刑ニ處セラル
 、者アリ又躁暴ニシテ更ニ忌憚ナキ三箇ノ密
 社アリ專ラ奧國政府ヲ扶持シテカルボナリ社
 及自由社ヲ倒サント欲ス此輩自ラ罰責ナキヲ

信シ公然白日中ニ人ノ財ヲ掠メ或ハ人ヲ殺ス
 一男女小兒ヲ論セス而シテ教皇及ヒ自他ノ公
 侯モ敢テ之ヲ阻遏スル能ハス
 當時以大利ノ專ラ望ヲ屬スル所ハ撒歪家ニ在
 リ且佛國ノ其間ニ居リ幫助ヲ加ヘン一ヲ求ム
 ウイクトル、エマニユル二世ハノバラノ一戰後
 奧國ノ愛顧支持ニ賴テ擅制ノ君主トナル能ハ
 サルニ非スト雖モ寧口立憲ノ朝ニ臨ミ以大利
 獨立ノ一豪傑トナリ王家一統ノ功ヲ奏センニ

ハ如カスト思ヒ乃宿弊ヲ剷除シ勉テ國民ヲ開
 明ノ域ニ導ケリ故ニ千八百五十九年埃國ト再
 ヒ釁ヲ開ントスルニ臨ミ以大利各邦ノ義勇兵
 遣レテ其軍營ニ投スル者千百群ヲ成シ殊ニ五
 人ノ上將中三人ハ多加納人ナリ爰ニ佛帝拿破
 崙三世ハ專ラ人民ノ志望ニ投シテ已ノ權カヲ
 收メント欲シ夫ノフランシス、ジヨウセフノ徒
 ニ古ヲ援テ羅馬ノ盛時其祖先ノ制御スル能ハ
 サリシ以大利地方ヲ管轄センコトヲ冀望セシト

其意旨明白ニ相及セリ蓋佛帝ハ世襲ノ論理ニ
 反シテ同國同種ノ論ヲ主張シ兩半島ノ羅甸人
 種ト天然ノ同朋タルヲ理會シ以大利人民ノ獨
 立自由ヲ助テ埃國ノ威カヲ挫折セシム而シテ
 能ク佛帝ヲ翼賛シテ其義舉ヲ遂ケシメシハ撒
 丁ノ上相カウントカブールノ功實ニ多キニ居
 レリ

千八百五十九年四月二十三日多靈チエリンニ在ル埃國
 ノ欽差撒丁政府ニ告ルニ其兵備ヲ減シ靖和ノ

形勢ニ復スヘキヲ以テス撒國政府肯セス故ヲ
 以テ埃兵直ニチシノ河ヲ渡テ進ム此時佛軍ハ
 既ニ熱那ニ上陸シ拿破崙ハ皇后ユーゼニヲ
 留メテ政ヲ攝セシメ五月十二日親ラ兵營ニ赴
 テ其節度ヲ為ス多加納ノ大公摩德拿公及ヒ巴
 馬ノ女主ハ人民ニ逐ハレテ其首府ヲ去リ既ニ
 シテウイクトル、エマニユエル王多加納ノ總管トナ
 リシカ此職ヲ辭シテ親ラ佛撒聯合ノ兵ニ將ト
 シ其指揮ヲ司ル五月二十日埃兵ハモンテベル

ロニ於テ佛兵ト會戦スル五時遂ニ潰走シ三十
 日及ヒ三十一日再ヒ撒丁兵トパレストロニ戦
 テ敗ル六月四日マゼンタノ役ニ佛撒ノ兵遂ニ
 全勝ヲ獲此際佛將マクマホン其豫備隊ヲ率キ
 テ来リ會シ其危急ヲ拯ヒ大ニ其成功ヲ助ケシ
 ヲ以テマゼンタ侯ノ稱號ヲ得マルシヤルノバ
 トシヲ以テ賞セラルマリヤノノ戦ノ如キハ前
 役ニ比スレハ別ニ重要ナラスト雖氏亦埃軍ノ
 不幸トナリ次日即六月八日拿破崙及ヒウイクト

ル、エマニユエルノ両主營ヲ駢ヘテ凱歌ヲ奏シ米
蘭府ニ入ル府民迎拜シテ戰勝ヲ賀シ萬歲ノ聲
盡日絶ヘス

塙國ハ一日クレモナペスチイラウエロナ及ヒ
マン至アノ堅塞ヲ以テ圍繞セル著名ナル四面
形ノ地ニ引退キ千八百五十九年六月二十四日
更ニツルエリノニ於テ最後ノ決戰アリ塙軍再
ヒ敗ル因テ七月八日佛塙兩帝ウイラフランカ
ニ會シテ講和ノ條件ヲ豫定ス塙國ハマン至ア

及ヒペスチイラノ城塞ヲ除クノ外ロンバルヂ
イノ地舉テ佛國ニ讓與シ拿破崙ヲシテ之ヲ撒
丁ニ贈ラシメ撒國亦佛國ノ乞ニ應シテ撒至尼
西ノ兩地ヲ割テ佛國ニ與ヘ以テ其外援ノ功ニ
酬ユ又以太利ノ諸邦ヲシテ互ニ聯盟シテ別ニ
一大國ヲ建テ教皇ヲ奉シテ其上班ニ置クヘキ
ヲ勸ムル者アリト雖此計ハ到底國民合同ノ
主旨ト相距ル遠キヲ以テ其情願ヲ充スニ足ラ
ス是ヲ以テ多加納摩德拿巴馬及ヒ教皇領口マ

ニヤハ皆撒丁王ヲ奉シテ其統治ニ屬センヲ願
 フ是以大利ノ王國建立スル所以ナリ尋テガリ
 バルヂ及ヒ其義勇兵ノ力ニ藉テ西々里ヲ下シ
 又アンコナト教皇領ノ大部ヲ奪ヒ及ヒ不爾奔
 王フランシス第二世ノ那不列ヲ棄テ敗走セシ
 トヲ以テ其廣袤頓ニ増加ス茲ニ兩西々里ノ人
 民翕然協同ウイクトル、エマニユエル王ノ笏下ニ立
 チ以大利王國ト合併スヘキヲ公布ス故ニウイク
 トル、エマニユエル王ハガリイルヤノノ戰捷後蹕

ヲ那不列ニ駐ム是ニ於テ威^{ウエニス}尼斯及ヒ羅馬府ト
 其直轄州ヲ除クノ外亞^{アルプス}爾伯山ヨリ西々里ノ最
 南端ニ至ルノ全地舉テウイクトル、エマニユエルヲ
 奉シテ王トナシ人民始テ一君ノ統治ニ歸セリ
 時ニ千八百六十年十一月ナリ

連國ノ戰

以大利ノ亂ニ繼テ歐洲ノ靖寧ヲ攪擾セシハ連
 國ノ一大疑問是ナリ千八百六十三年フ^ルデリ
 ック七世ノ殂スルヤ四百有餘年連綿繼續セシ

ラルデンブルグノ系統此ニ至テ全ク斷ヘタリ
 往者千八百五十二年倫敦ノ會議ニ於テフレデ
 リツグ七世若シ子ナクシテ殂スル時ハ其姪孫
 女ヲ娶リシスレイス、ウイグ、ホルステイン、グリニ
 クスブルグノクリスチアン公ヲ立テ其後ヲ繼
 ガシムベク又クリスチアンノ宗親即ヲーガス
 テンブルグ公ハ三百五十萬弗ヲ得テスレイスウイグ斯勒瑞荷
 斯丁ノ侯國ヲ有スヘキ權理ヲ讓リデンマーク丁抹王國ト
 共ニクリスチアン公ニ傳フヘキニ確定セリ抑

千八百四十八年以來日耳曼ノ黨與ハ切ニ此侯
 國ノ獨立ヲ希望セシカ此ニ至テフランコホルト埃字ノ二國モ
 亦其說ヲ同フシ其影響終ニ佛朗佛ノ大議會ニ
 及ヒ議員等皆日耳曼合盟國ノ兵ヲ以テ荷斯丁
 ニ占據スルノ投票ヲナスニ至リ又字ノ議院ニ
 於テハヲーガス、テンブルグ公ヲ立テ、斯勒瑞
 荷斯丁侯ト認メ之ヲ扶持スルハ日耳曼ノ榮利
 トスヘキニ決セリ然レ氏此等ハ徒ニ一時ノ術
 計タルニ過キスシテ字ノ宰相ビスマーク侯ノ

畫策ニ從ヘハ痾斯丁州ノキイル港ニ亭國ノ海軍武庫ヲ設置スルノミナラス再ヒ日耳曼列國ヲ合セテ我王ヲ其上班ニ置ント欲ス

斯テ千八百六十三年十二月合盟國大議會ニ於

テハ阿諾威薩索尼ノ兩國ニ命シ日耳曼合盟國ノ名ヲ以テ兵ヲ發シテ痾斯丁州ニ據ラシメ

國政府ニ要シテ其地ニ屯成スル兵ヲ七日間ニ退ケシム

噠玉ハ噠ニ已ノ其地ヲ有スヘキ權理ノ公正ナルノミナラス曩ニ倫敦ノ條約ニ連署

セシ各國ノ必ス坐視スヘカラサルヲ思ヒ殊ニ英國ト姻婭ノ親アルヲ恃ニ斷然意ヲ交戦ニ決

セリ此際塙國ハ亭國ノ狡猾ナル交際法ニ德憑セラレテ巴ムヲ得ス同盟トナリ終ニ之トカヲ

戮セテ二侯國ヲ侵撃セントス日耳曼ノ大議會ハ塙亭ノ舉動ヲ拒ミシカニ國ハ更ニ之ニ管セ

ス千八百六十四年一月ゼ子ラールウラングル

塙亭二國ノ兵ニ將トシテ痾斯丁ニ進入ス噠國

ノ海軍ハ亭ノ諸港ヲ封シヘリゴーランドノ近

ノ海軍ハ亭ノ諸港ヲ封シヘリゴーランドノ近

傍ニ於テ敵船ヲ擊破シ頗ル捷利ヲ獲シト雖氏
陸地ハ每戦利アラズ是ニ於テ噍兵ハ翅ニ二侯
國ノミナラスジユトランドヲ并セテ之ヲ棄テ
丁抹諸島ニ集合セシガアルセン島砲撃ニ遇テ
投降セシ後其抵抗力全ク竭キ終ニ和ヲ講スル
ニ至レリ時ニ亨國ハ痾斯丁ニ屯據スル合盟國
ノ兵ニ其地ヲ退カンメシ故ニ合盟國ノ大議會
ハ其專横ヲ怒リ之ヲ駁論スト雖氏亨國ハ敢テ
意トナサス連勝ノ威ニ乘シテ噍國ヲ席卷セン

ト欲ス故ニクリスチアン王ハ當時其地ノ大半
ヲ失ヒ歐洲ノ各大國敢テ赴援スル者ナキヲ以
テ孤軍ノ竟ニ敵スヘカラサルヲ知リ十月三十
日和ヲ維也納ニ講シ斯勒瑞痾斯丁勞英不ノ三
州ヲ墺亨ニ附シ其意ニ任セテ其政府ヲ設クハ
キヲ諾セリ是ニ於テカ知ル曩ニヲ一ガステン
ブルグ公ノ痾斯二州ニ君臨スヘキヲ要メシハ
徒ニ二大國開戦ノ口實トナリシヲ何ソヤ墺亨
ノ二國ハ絶ヘス兵力ヲ以テ此二州ニ占據シ終

ニ千八百六十五年八月ガステインノ會議ニ由テ斯勒瑞、勞英不ヲ孛國ニ付レ疇斯丁ヲ墺國ニ付セシヲ以テナリ

七週戰

千八百五十九年以來普魯西ノ陸軍ハカウントヲシ、ルーンノカニ藉テ全ク其編制ヲ改正シ步兵ヲシテ悉ク針銃ヲ荷ハシメ且其兵制ノ完全ナル能ク至大ノ勢カヲ有スルヲ得タリ然ルニ墺國ハ舊制ヲ墨守シテ更ニ軍器ノ改良ナク殊

ニ交際法ニ於テモビスマークノ深謀果斷善ク時機ヲ洞察スルノ明ニ敵スル能ハス是ニ於テ數旬ニ決定セル日耳曼統領ノ爭將ニ起ラントスルニ至レリビスマークハピアリツ、ニ於テ拿破崙三世ニ面議シテ佛國ノ此爭ニ關セサルヲ審ニシ又英國ノ切ニ平和ヲ希望スルヲ知ル魯西亞ハ嘗テ波蘭ノ役孛國ノ助ヲ得ル居多ナルニ因リ孛國ニ黨シテ新ニ其恩ニ酬ヒントシ以大利ハフランス、ジヨウセフノウイクトル、エマ

ニエルニ威尼斯ノ地ヲ賣與スルヲ肯セサルヲ
 以テ稍不快ノ念ヲ生シ亦亭國ト深ク相結ヘリ
 是ニ於テビスマークハ痾斯二州ノ事ニ關シテ
 奧國ノ所置不正ナルヲ論シ遂ニ釁隙ヲ開キ交
 戰ニ及ヘリ此戰爭ハ以國ニテ威尼斯ヲ得亭モ
 亦日耳曼ニ於テ同一ノ領地ヲ増スノ日ニ至テ
 始テ其干戈ヲ戢ムヘキヲ約スト云フ
 當時北日耳曼ノ小國ハ直ニ亭ヲ援クヘキニ決
 セシカ其大國中薩索尼阿諾威ハッ黑西ノ三國ハ此

戰ニ與スルヲ拒ミ忽チ亭兵ノ攻撃スル所トナ
 リ阿諾威王若耳洛ノ如キハ僅ニ十二時間ノ猶
 豫ヲ以テ其向背ヲ決セシム初メランゲンサル
 サノ一戰阿諾威人勝利ヲ獲シカ亭ノ援兵新ニ
 來會シテ忽又之ヲ圍ミ王ハ已ムヲ得ス其兵ヲ
 敵ニ交付シ并セテ王冕ヲ授クルニ至リ亭王因
 テ阿諾威王領ヲ除クノ外如何ナル土地ヲ論セ
 ス王ノ好ム所ニ任セテ其居住ヲ定ムヘキヲ許
 セリ而シテ今克服スル所ノ地ハ東西普魯西ノ

隔絶セル州郡ノ間ニ在テ重要ナル鏈環トナレ
 リ西日耳曼ニ於テハ^{バクテリヤ}亭將マンチーフエルノ軍
 巴威里公查爾斯及ヒ黑西公亞歷山ノ率キタル
 日耳曼合盟國ノ兵ニ拒撃セラレシカ東日耳曼
 ニ於テハ亭國ノ太子及ヒ其同堂フレデリッキチ
 ヤーレス公ノ兵薩索尼及ヒ西^レ勒西亞ノ國境ニ
 在ル山道ヲ經先ヲ爭テ波^ボ希^ヘ米^{ミヤ}ニ侵入シマルレ
 ヤルベ子デツキノ帥キタル^ポ埃國ノ大軍ト會戰
 ス又ア^レシヤツ^エンブルグニ於テハ亭兵輒ク勝利

ヲ獲是則埃軍中威尼斯ノ兵隊殊ニ多ク其友朋
 同盟ト戰ハンヨリ寧口好機會ヲ窺テ投降スル
 ニ若スト思ヘルヲ以ナリ
 既ニシテ亭兵ハ一戰ヲ費サスレテ佛朗佛ヲ領
 シ勝者ノ權ヲ挾テ過多ノ軍資金ヲ誅求ス最後
 ノ千萬ターレルヲ納ルニ當テ稍遲慢セシヲ
 以テゼ子ラールマンチユーフェルハ萬國公法
 ノ特ニ保護スル獨立府ノ權理ヲ顧リミス漫ニ
 砲撃劫掠ヲ行ハントス南日耳曼ノ諸邦ハ亭國

ノ兵ニ比スレハ二倍ノ數ヲ有スルト雖氏マン
 チユーヱルノ行進スラ尚且之ヲ綴ル能ハスビ
 スマークノ豫算シテ日耳曼列邦ノ兵ヲ畏ル、
 ニ足ラストセシ者此ニ至テ果シテ然リ其間波
 希米ニ於テハ兩公屢苦戰シテ勝利ヲ獲遂ニイ
 セル及ヒ上易北ノ地ニ據有シマルシヤルベ子
 デツキハ二十萬ノ墾兵ニ將トシテキユーニフ
 グラツノ近傍ニ屯シ兩公ノ來ルヲ俟テリ尋テ
 千八百六十六年七月三日近古著名ナル戰場ノ

一タルサドワ村ニ於テ激烈ナル戰鬥アリ各地
 ノ戰爭ト同ク此地ニ於テモ守兵ノ發射極メテ
 疾速精密ニシテ能ク剛勇練熟ノ墾兵ヲ制伏シ
 剩サヘ從來勇銳精悍ノ聞ヘアル墾ノ騎兵モ守
 ノウーランスト輕騎兵ノ一種本ノ為ニ潰走シ殊
 ニ盡日風伯雨師ノ暴威ヲ逞スルアリテ其辛酸
 殆ト比擬スヘカラスト雖氏日晚遂ニ墾軍ノ中
 央タルクリムノ要地ヲ奪ヒ大軍三田ノ決戰ニ
 尚能ク之ヲ支持シサドワノ劇戰此ニ至テ全ク

其局ヲ了セリ此役奧兵ノ虜セラる、者二萬人
 大砲ハ大抵敵ノ有トナレリ蓋シ戰死スル者ハ
 其數相若クト云フ
 斯テ李軍ハ全勝ノ勢ニ乘シテ波希米ノ京城巴
拉加ニ入り直ニ進テ奧ノ首府維也納ニ逼ラン
 トス故ニ奧國ハ急ニ以大利ニ在ル兵ヲ召還シ
 以テ其京城ノ防守ニ備ヘ更ニ維也納近傍ノ地
 ニ於テ一大決戰ニ及フヘキノ景狀ニ至レリ蓋
 シ此戰ハ奧兵若シ再ヒ敗ルレハ其勢全リ李ニ

屈セサルヲ得ス李兵モ若シ敗ル、時ハ懸軍深
 入本國ノ救援ヲ得ル能ハス故ニ當時設シ一大
 國ノ其間ニ居リ調停ノ議ヲ唱フル時ハ其勢兩
 國必ス之ヲ諾セサルヲ得ス殊ニ李國ノ如キハ
 當時戰勝ノ威ニ乘スト雖佛國ノ或ハ其虚ヲ
 擣ンコトヲ顧慮セサルニ非ス故ニ佛國政府ハ其
 情勢ヲ察シ專ラ勸解ノ議ヲ主張セリ既ニシテ
 兩國政府ハ拿破崙帝ノ言ニ從ヒ終ニニコルス
 ビュルグニ於テ假ニ和議ノ條約ヲ結フニ至レ

リ蓋シ此條約ノ大旨ハ奧國ハ日後全ク日耳曼
 合盟中ヲ退キ普國ヲシテ北日耳曼ヲ統括セシ
 メ又普國如シ合盟國ノ兵ヲ總へ且外國交際ノ
 為其合盟國ニ代理スル權ヲ行フアル時ハ奧國
 敢テ其喙ヲ容ルヘカラサル等ノ數件ナリ
奧國政府ハサドワノ一敗ニ由テ威尼斯ノ地ヲ
佛帝ニ讓リ佛帝ヲシテ更ニ之ヲウイクトル、エマ
ニエルニ交付セシム以大利王ハ其同盟タル普
 王ニ比スレハ數奇ニシテ戰屢利アラヌ六月二

十四日キュストツサニ戰テ多ク士卒ヲ喪ヒ又波
希米戰鬪ノ同日ガリバルヂ及ヒ其義勇兵ハモ
 シテ、シユエロニ敗績セリ然レモ以大利ノ合同ハ
 日耳曼ノ合同ト其功ヲ成ス一轍ニ出タリ威尼
斯人翕然一和ウイクトル、ユマニエルヲ奉戴シテ
 其君ト仰キ歡喜シテ之ヲ迎接シ且セント、マー
 クノ禮拜堂ニ於テ大事ノ成ルヲ祝シ為ニ感恩
 ノ祭ヲ行ヘリ
 日耳曼ノ七週戰ニ普國勝利ノ實功ハ巴拉加府

ノ條約ニ於テ固定シ而シテ日耳曼列國ノ制全ク解ク壤國ハ孛國ノ自高自大ニ任從シ又日耳曼列國ノ再造ニ黨セサルヲ約シ且戰費トシテ孛國ニ二千萬タールヲ償ヘリ而シテハプスブルグ家六百餘年享有セル日耳曼列邦上班ノ地位ハ建國古シト雖氏威名ハ却テ劣リタルホーヘンソルレルン家ニ伝フルニ至レリ又孛國ハ這田ノ戰勝ニ因リ阿諾威黑西加塞拿騷佛朗佛ノ各地皆其版圖ニ歸シ斯勒瑞琦斯丁勞英不

ノ三州モ亦之ヲ併セシ故ニ孛國ノ幅員頃ニ三萬三千方里ヲ増セリ

孛漏生ノ王家ハ其先ホーヘンソルレルンノカウントタツシロニ出ツ此人ハ紀

元八百年ニ殂セリハプスブルグノ王家ハ紀元千九十六年ノ創建ニ係ル

孛國ハ北日耳曼列國合盟ノ制ヲ立テ各國人民普通ノ投票ヲ用キテ其議員ヲ選舉セシム又此合盟國ノ盟主ハ之ヲ孛國王ト定メ合盟國ノ首

相ハ外國內國司庫ノ事務ヲ兼掌シ別ニ兵事宰相ヲ置キ以テ合盟國兵馬ノ事務ヲ掌ラシム又此合盟國議院ノ權ハ列國共同ノ事務ニ及ヒ別ニ合盟國會議ト稱スル者ヲ設ケテ各國政府ノ代理者ヲ其議員ト為シ以テ合盟國法律ノ議案ヲ草シ且通常ノ事務ヲ處分セシム

澳帝フランシス、ジヨウセフハ獨世襲封土ノ管治一カヲ竭シ緊要ニシテ智識アル改革ヲ行ヒ以テ兵燹ノ災ニ罹リテ衰頽凄慘ノ狀ニ沈ミシ

州郡ヲシテ繁華隆盛ノ區トナラシメント欲ス
 澳國政府ハ國帑已ニ耗竭シ兵隊ハ殆ト烏有ニ
 歸シ且強テ帝笏ノ下ニ連合セシ數種ノ國民ハ
 民權及ヒ法教ノ權ヲ奪ヘル擅制ノ治法ヲ甘ン
 セスシテ獨立ヲ圖ラントスルノ景況アリ然レ
 氏サキソンバロンフオン、ボイストニ命シテ皇
 帝議會ノ長トナセシヨリ人民自由ヲ得ルノ望
 稍回復シ再設ノ民委會ハ人民ヲシテ政府ノ重
 任及ヒ特權中ニ就テ的當ナル部分ヲ占メシム

匈牙利ハ奥地利ト合シテ同ク一帝ヲ奉スト雖
氏別ニ國會アリ宰相アリテカウントアンドラ
シイ其首班タリ且別ニゲルゲーシヨント稱セ
ル合同會議ノ方法ヲ用斗奥匈公會ヨリ六十人
ヲ派出シ更兩國ノ首府ニ相會シテ共通ノ事務
ヲ議決セシメ以テ帝國一般ノ利益ニ關シテ一
部ノ權ヲ占有スルヲ得タリ千八百六十七年奥
帝フランシス、ジヨウセフハペストニ於テセン
ト、ステヘンノ冕ヲ戴テ匈國ノ王位ニ即キ明年

維新史綱 卷一 東京府立圖書館

詔ヲ發シ國號ヲ改メテヲーストロハンガリア
ン帝國ト稱シレイタ以東ノ部下ニ許シテ別種
ノ國民タルノ性情ヲ遂ケシメタリ
奥國ノ制定セシ憲法ハ殆ト英國ノ憲法ニ同ク
公會ノ選ヒタル宰相ヲ以テ萬機ノ責任ニ任スル
者ト定ム貴族及ヒ僧徒ハ自ラ之ニ抵抗スト雖
氏奥帝ハ斷乎トシテ新政體ヲ維持スルヲ以テ
奥國公會一場ノ集議ニ因テ千年来擅制ノ政體
一朝地ヲ掃テ盡クルニ至ル實ニ千八百六十七

讀古史綱記 卷一 三九 東京府立圖書館

八年ノ間ニ在リ婚姻及ヒ教育ハ全ク僧徒ノ管轄ヲ脱シ且人民ノ等級宗教ノ區別人種ノ異同ヲ論セス法律ニ對シテ一樣同等ノ權ヲ有スヘキヲ令セリ斯ク數月ヲ出スレテ十全ナル改革ヲ遂ケレハ千七百八十九年八月佛蘭西國ノ民議會ノ變革ヲ除クノ外恐クハ無前ノ偉舉タルヘシ然リ而シテ佛國當時ノ憲法ハ峻阪ヲ下ルカ如ク倏チ混沌ノ形狀ニ沈ミシカ墺國ニ於テハ古制ノ積弊ヲ除テ益改良ノ新制トナリ衆論

紛々タリト雖モ外國ト擾亂ヲ生シ公安ヲ害スルニ至ラス千八百七十年ニハ羅馬教皇トノ盟約ヲ嚴ニ廢除シ全ク自由奉教ノ制ヲ定メリ

東方ノ英領

亞細亞地方ニ於ル歐洲ノ貿易殖民地ノ事情ヲ詳説スルハ此史ノ主旨トスル所ニ非サレモ近古二百年間最較著ナル事件ノ中ニ就テ印度、タラリア、ボルネオ、ニウゼイランド、大利亞、タラリア、ボルネオ、ニウゼイランド、大利亞、婆羅洲、新西蘭ニ英領ノ興リシ景況ハ畧説セサルヘカラス英國ノ東印度公司ハ其創立

ヨリ凡百年ノ間專ラ交易ニ從事シ莫臥爾帝ノ
 准許ニ因テ城塞及ヒ倉庫ヲ建ルノ地ヲ得少許
 ノ守兵ヲ備ヘテ猛厲ナル馬拉他人ノ侵襲ヲ防
 キシカ彼葡佛荷三國ノ商利次第ニ衰ヘ終ニ大
 半島トノ交易ヲシテ殆ト獨東印度公司ノ手ニ
 委スルニ至レリ三箇ノ英轄中加爾各塔ヲ以テ
 最トナス此地ハ昔者ヲーラングゼーブヨリ公
 司ニ贈リタルフリーグリーニ在ル小邑ナレモ今
 ハ巍然タル雄麗ノ城市トナリ終ニ温都斯坦ノ

首府トナルニ至レリ佛國ハ此地方ニ於テ唯二
 箇ノ藩部ヲ有ス一ハ本地治里ニ在リ一ハアイ
 ルヲフ、フランスニ在リ

第十八世紀ニ當テ亞細亞ノ莫臥爾帝國ハ歐羅
 巴ノ羅馬帝國ト殆ト一樣ノ景況ヲ現ハセリ其
 需要ハ舊ニ依テ減セサレモ之ヲ勒索セシ勢力
 ハ自ラ衰廢セリ然レ印度半島ノ二十一國得列
 ノ朝ニ向テ忠誠ヲ輸ス一普魯西ノフレデリッ
 キ二世ノ維也納ノ朝ニ於ルニ比スレハ較愈レ

リトス又此地方ニ勢威アル人民ハ回教ヲ奉ス
 ルノ徒ナルカ故ニ古昔ノ佛教ニ沈迷セル億兆
 ノ人民トハ其宗教上ニ於テ全ク外人ノ如キア
 リ又酋長ノ輯睦セサル者ハ其相戦フ毎ニ外國
 ノ援助ヲ仰ガサルハナシ故ニ英佛二國ハ常ニ
 彼此相分レテ印度人ノ戰鬪ニ干涉セリ
 歐羅巴ノ領地ニ莫臥爾國ヲ再興スルカ如キ思
 想ハ佛蘭西人ニ始マリ叙跋即土兵ヲ操練シテ
 歐洲士官ニ從ヒ其指揮ヲ受ケシメシモ亦佛人

ヲ以テ嚆矢トス是則印度ヲ征伏スルニ緊要ノ
 手段ニシテ斯ク遼遠ナル廣大ノ土地ヲ克服ス
 ルニ足レル兵隊ヲハ歐洲ヨリ運移スル能ハサ
 ルノミナラス温都斯坦ノ地氣候佳ナラス外國
 兵士ノ久住ニ適ヤサレハナリ抑英佛七年間ノ
 戦争ハ印度ノ殖民地ニ於テ兩國ノ民久シク相
 敵スルノ情ヲ激セリ千七百四十六年アイルラ
 フ、フランスノ制台ハ麻打羅薩ヲ圍テ之ヲ陷レ
 本地治里ノ制台ジュプレーハ英國ノ同盟ナル

德干ノ土族ヨリ生齒十萬ノ都邑タルアルコツ
 トノ地ヲ奪ヒシニ幾モナク年少ノ英人口ベル
 トクライヴノ為ニ奪還セラル此人ハ東印度公
 司、會計局書辦ヨリ出身セシカ天性豪勇ニシ
 テ戰場ニ臨テ頗ル怯ク奮勵シ終ニ英領印度ノ
 總督トナレリ是時クライヴハ雇ニ五百ノ兵ヲ
 以テアルコツトヲ奪ヒ繼テ一萬人ノ土兵ニ敵
 シテ克ク防守ノ功ヲ奏シリウテナント、コロ子
 ルノ任ヲ以テ其功勞ヲ賞セラレタリ

居ル數歲孟加拉ノ總督スウラジャ、ドーラト云
 フ者加爾各塔ヲ取ル英國ノ民其地ニ在ル者百
 四十六人太抵皆暗窟ノ間ヘアル有害ノ牢狴ニ
 囚繫セラレ羣衆闐咽單夜ニ局死スル者頗多シ
 クライヴハ僅ニ三千ノ兵ヲ以テ英領ノ首府ヲ
 回復シフーグロイヲ攻撃シテ之ヲ畧シ又ブラッ
 シイニ於テスウラジャ、ドーラノ帥キシ五萬ノ
 兵ト戰ヒテ全勝ヲ得タリ故ニ人皆謂フクライ
 ヴハ英領印度ノ開基者ナリト是ヨリ後ジユー

ブレー創立ノ佛領ハ忽諸殄滅シ千八百年代ニ至テ大半島ノ地悉ク英國ノ克服スル所トナリ一億八千萬ノ人民ヲ統制スルニ至レリ蓋英國ノ斯ク莫大ノ版圖ヲ擴メシハ一ハ土侯ノ争鬪ニ干渉スルニ由リ一ハ直ニ金ヲ以テナイサム尼桑或ハラヂヤノ君權ヲ買フニ係レリ此等ハ従前惡政ヲ施シタル己ノ土地ヨリ誅求セシ者ニ比スレハ更ニ多量ノ貢税ヲ納レテ以テ攻伐ノ虞ヲ免ル、者ナリ

クライヴノ政畧ヲ追テ更ニ之ヲ張大ニセシハワルレン、ヘイスチングスナリ此人ハ千七百七十三年ニ東印度公司ノ管地ヲ再造シテ印度ノ鎮將トナレリ曩ニ痛ク英國ニ抗敵セシミソールノ土侯ハイデル、アリモヘイスチングス管治ノ時ニ至テ其羈軛ニ就ケリ爰ニクライヴ、ヘイスチングスノ両氏ハ印度ニ在ルノ日巨萬ノ財ヲ充積ス二人ノ行フ所土侯ノ暴政ニ比スレハ大ニ正直慈仁ナリト雖其壓制ノ所為ニ至テ

ハ道德上ヨリ之ヲ論スレハ焉ソ其責ヲ免ル、
ヲ得ンヤ二氏ノ瑕瑾タル固ヨリ疑ヲ容レサル
ナリ且二氏ノ為ス所ハ英國議院ノ一大疑問ト
ナリ其功勞ノ偉大ナルト罪案ノ確證ニ乏キニ
由テ終ニ宥恕セラレシト雖モクライヴハ絶望
ノ餘終ニ自盡シヘイスチングスハ屏居シテ其
殘年ヲ送ルニ至レリ
從來印度ノ英領ハ女王エリサベスノ特許ヲ得
タル商社ノ獨統括スル所ナリ其後ピットノ發

言ニ由テ終ニ議院ノ決議ヲ經千七百八十四年
印度總理局ヲ置キ印度ニ在ル官吏ヲシテ多少
本國政府ノ責ニ任セシムルヨリ漸次ニ寛大ナ
ル政治ヲ施スニ至レリ茲ニミソールノ支丹チ
ツプー、サイブハ帝ニ父ノ位ヲ繼ケルノミナラ
ス亦其志ヲ繼テ英國ト解クヘカラサルノ仇怨
ヲ結ヒ多年間戰爭絶ヘス又佛人ハ嘗テ印度ノ
地ヲ逐ハレシヲ恨ミ須臾モ其懷ニ忘ル、能ハ
ス故ニ近時英人亞米利加ノ所有地ヲ失ヒシ如

ク容易ニ其亞細亞領ヲモ喪ハシメント欲シ容
 ニ熱心シテチップーノ謀議ニ參加セリ千七百
 九十二年ニ文丹ハ屈伏シテ只管講和ヲ乞ヒ其
 二子ヲ質トスルニ至レリ然レ千七百九十九年
 ニ戰再ヒ起リ其首府西令巴登ノ城中ニ於テ奮
 闘シテ死セリ

馬拉他人子ボールス尼伯爾山ノ獲得ナルグールカ人及ヒ

内地ノピンダリー人ト連年戰爭アリテ終ニ東

印度公司ノ管地非常ニ増加セリ而シテ千八百

十九年マレイ半島ノ南端ニ迄キ新嘉坡ニ英國

殖民地ノ開ケシヨリ其地印度群島ノ中市トナ

リ多量ノ產物薈萃スルヲ以テ東印度商社ノ貿

易滋興隆スルニ至レリ千八百三十三年商社ノ

免許期既ニ滿チ更ニ二十年間印度ノ行政ヲ託

セラレシト雖レ從來壟斷セル獨商ノ權ハ停メ

ラレテ英國管下ノ人民自由ニ其地ニ通商スル

ヲ得タリ文那ト阿片ノ交易盛大ニ至リシモ畢

竟此改革ノ重要ナル効驗ノ一ナリトス文那政

府ハ既ニ商社ノ緩慢適宜ナル舉動ニ空ク制セラレシカ其市場ニ阿片ノ供給俄ニ増シ且其人
 民死生ヲ顧リミスレテ之ヲ嗜好スルノ習慣ニ
 陥リ其害タル淺々ナラサルヲ以テ大ニ驚愕シ
 詔シテ其輸入ヲ禁セリ然ルニ支那商估ハ共ニ
 其利ヲ享クルヲ以テ為ニ走私ヲ行ヒ官吏モ亦
 賂遺ヲ貪リ佯テ知ラサルヲ為ス政府ハ此所為
 ヲ見テ大ニ激怒シ英商ニ令スルニ其現存ノ阿
 片價銀大約ヲ舉テ悉ク交付スルニ非サレハ廣
 片千萬弗

東ニ在ル倉庫ヲ封鎖スヘキヲ以テセリ
 彼此ノ事情ニヨリ二國交相惡ク遂ニ二年間ノ
 戰鬪ヲ惹起セリ此際廣東ノ地英兵ニ陥ラレシ
 カ幾ナラス六百萬弗ヲ以テ之ヲ償還シ又廈門
 寧波其他ノ數府モ砲撃ヲ被リ為ニ奪ハル是時
 ニ當リテ支那政府ハ徒ニ延期ノ計ニ出テ、數
 回巧譎ノ商議ヲ為セシカ終ニ意ヲ順從ニ決シ
 南京ニ於テ講和ノ條約ニ鈐印シ香港島ヲ英國
 ニ讓與シ廣東廈門福州寧波上海ノ五港ヲ開テ

外國ノ互市ニ供シ歐洲各國ノ領事ニ其居住ヲ
 許シ且二千一百万弗ヲ出シテ戰費ヲ償フニ至
 ル蓋此戰ノ是非曲直ハ一大疑問ヲ免レスト雖
 氏要スルニ此條約ノ較著ナル所以ハ杜門謝客
 ノ最舊帝國ヲシテ始テ萬國ト交際ヲ開クニ至
 ラシメシ源頭タルヲ以テナリ
 同年ノ間ニ英國ト阿富汗トノ戰全ク終レリ此
 戰ハ千八百三十八年客布爾ノ廢主シャル、スージ
 ヤヲ助テドスト、モハノツトヲ逐ヒシニ在リギ

一、スー ज्याハ客布爾ニ於テ再ヒ踐祚セシト雖
 氏其暴虐無道ニシテ天誅ヲ容サ、ルハ其臣下
 ニ弑マラレシヲ以テ之ヲ知ルヘシ此役英兵ハ
 信地ノ沙漠及ヒホーラン山隘ヲ越テ進行シ百
 般艱苦ヲ嘗ム其豪邁不屈ナル能ク義舉ニ耻チ
 ス而シテ累戰皆克チ終ニ客布爾ニ據有ス阿富汗
 汗人ハ常ニ報復ノ念ヲ懷キ不意ニ英人ノ城塞
 ヲ襲ヒ英將數人其殺ス所トナリ英軍已ムヲ得
 スシテ退ケリ此退軍ハ兇猛暴戾ナル土民ノ詭

詐ト仲冬ノ嚴寒トニ因ニ其衆殆ト殲滅シテ遺類ナカラントス茲ニ土人ト婚姻ヲ結ビシ官吏及ヒ其室家ヲ合セテ大約一百ノ歐人質トナリテ留マリシカゼ子ラールポルロツクノ兵新ニ侵襲スルニ會シ僅ニ其生命ヲ保ツヲ得タリ爾來阿富汗ハ一定ノ政府ナク内訌常ニ絶ヘス又下印度ニ在ル重要ナル信地州ハ曩ニ客布爾ノ君主ニ屬セシカ千八百四十三年チヤールスナピール此地ヲ征服シテ其撫臺トナレリ

是ニ繼テ更ニ重要ナル一事ハ兵威ニ據テ本若

ヲ領セシ塞哥人ヲ征服セシニ在リ蓋此地ハ馬

基頓ノ亞歷山ノ侵寇以來絶ヘス搶劫爭鬪ノ場

トナレリ塞哥人ノ宗教ハ佛教或ハ回教ト其趣

ヲ異ニシ道理上ニテ之ヲ論スレハ殆トフレン

ツ或ハクウエーケル宗ノ如ク温和ニシテ爭論

ヲ好ムノ心ナキカ如シト雖其性兇猛躁暴ニ

シテ鎗矛ヲ用ルニ慣ヒ其狀態甚畏ルヘキヲ覺ユ阿富汗ノ戰以來塞哥ト英國トノ舊怨ヲ挑起

シ千八百四十五年ノ末ニ塞哥ノ大軍サツトレ
 ジ河ヲ越テ英領ニ侵入セシカ塞哥ハ四回敗北
 シテ喪フ所實ニ多ク加ルニ戰費トシテ七百五
 十萬弗ヲ出シ且其幼王ヲ英國ノ保護ニ委スル
 ニ至レリ此王ハ勞不爾ラホールノ特公會ニ於テ幼ヨリ
 既ニ國王ト定メシ者ナリ
 條約鈐印ノ後數月間ニ塞哥ノ全地英國ニ併吞
 セラレ幼王ハ僅ニ其世襲ノ稅ヲ以テ俸糈ニ充
 ルノミ塞哥人ハ斯ル形勢ニ至リシヲ以テ自ラ

激憤ニ堪ヘス再ヒ兵ヲ興セシカ更ニ一層ノ顛
 覆ヲ致セリ此地ニコイナル光山ノ義ノ稱アル著名
 ナル鑽石アリ數百年來此土ヲ有スルヲ以テ異
 常ノ勢力ヲ保チ得ルト臆想セシモ今ハ其寶貨
 英人ノ手ニ奪ハレテ女王ノ首飾ニ加ヘラレタ
 リ本若ノ總督トナリシヘンリー、ロウレンスハ
 斯ク征服シタル人民ヲシテ威力ニ憑テ創建シ
 タル政府ト相和セシムルニ頗ル其艱難ヲ極メ
 シカ多年爭鬪ノ後ヲ兼ケ五歳ヲ出テスシテ靜

寧昌盛ノ觀ニ復セシハロウレンス氏ノ慈仁ニ
 シテ正直ナル政治ノ致ス所ナリ剛勇ニシテ戰
 ヲ好メル頭領モ今ハ屈シテ柔順トナリ其子弟
 等モ喜テ英吉利ノ學校ニ集リ其教育ヲ受テ文
 武ノ顯職ニ陞ラント欲ス又從來塞哥ニ屬シタ
 ル數萬ノ印度人及ヒ回教人ハ生命財產ノ保護
 ヲ受ケ其安全ヲ得ルト大ニ前日ニ勝レルヲ以
 テ輒ク其統管ニ服セリ夫レローレンス氏ノ能
 ク人民ヲ懷柔協和シ其偉業ノ赫々タルハ次ニ

記載セル千八百五十七年擾亂ノ際本若ハ英國
 ノ權力回復ノ地トナリ塞哥人ハ女王ニ最忠誠
 ヲ盡セルヲ以テ證スヘシ設シ當時塞哥人等ノ
 貞實微リセハ印度ノ英領ハ恐クハ顛覆ヲ免レ
 サルヘシ

千八百五十六年廣大ナル烏德國英國ニ隸シテ
 其版圖ニ入レリ其ラジャ即王ハ土侯中最憎ム
 ヘキ者ノ一ニシテ其管下ノ人民ヲ虐スルト英
 國ノ條約ヲ破ルトヲ以テ既ニ屢廢黜ノ議ニ及

ヘリ蓋シ此舉ハ久ク推測セシ極運即叙跋兵ノ背反ヲ促セリ夫レ僅々一掬ノ歐人ヲ以テ蠻烟瘴雨ノ中ニ拙息シテ屢其生命ヲ危フシ多年ノ間銳敏活潑ノ精神アル億萬人ノ上ニ立テ克ク其統一駕馭ノ權ヲ保チ又之ヲ擴張セシハ實ニ殆ト信スヘカラサルカ如シ加之所在叛兵蔓延シ其勢力一タヒ傾キシモ忽恢復ノ功ヲ奏シテ再ヒ其勢權ヲ握ルニ至リシハ最驚クヘキヲ覺ユ抑東印度公司所屬ノ土軍ハ總計二十三萬二

千二百二十四人ニシテ曾テ印度ノ王侯ニ養ハレシヨリハ俸給厚ク軍裝整ヘルヲ以テ常ニ自足シ英國ノ官吏ニ事フル小兒ノ父母ニ事ルカ如ク順從敬信セサルナシ然レ兵士等深ク異端ニ惑溺スルヲ以テ其宗教ヲ凌辱セララルト忘想シ終ニ生死ノ危害ヲ招ケリ爰ニ其緣由ヲ尋ルニ千八百五十六年英國ヨリ接手セル新工シヒイルド施條銃ニ軟膏ヲ塗レル藥包ヲ付セリ從來印度人ハ牝牛ヲ以テ法教ノ靈獸ト稱ス

ルカ故ニ包上ノ膏ハ或ハ牝牛ノ脂肪ナランコ
 トヲ疑ヒ之ヲ用キルヲ屑トセス終ニ諸隊舉テ
 之ニ抵抗ス是ニ於テ英國政府ハ直ニ此藥包ヲ
 廢シテ以テ兵士ノ情願ニ從ヘリ
 英國政府ハ兵士ノ志ニ從ヒシト雖氏彼此ノ原
 因ヨリ生シタル抑鬱不平ノ氣俄ニ諸州ニ蔓延
 シ特ニ孟加拉烏德ノ大隊及ヒ得列州内ニ熾ナ
 リ中等以下ノ人民ハ叙跋兵ノ背叛ニ黨セシカ
 頭目或ハ地主ノ大ナル者ハ能ク英政府ノ權力

ヲ了解シ且爭亂ノ為ニ多少ノ損害ヲ免レサル
 ヲ以テ皆政府ニ忠誠ヲ竭サ、ルナシ得列及ヒ
 ミイラットニ於テハ歐洲ノ寄寓者婦女兒童ヲ
 并セテ大抵殺戮ノ害ニ遭ヒ亂兵ノ過クル所往
 ヲ碧血ヲ漂ハスニ至リ其兇暴ノ狀實ニ心膽ヲ
 シテ寒カラシム得列州ハ逆匪ノ首府トナリ莫
 臥兇大帝ノ胤モハメツト、ヒユセイソヲ立テ印
 度大皇帝ノ位ニ即カシム既ニシテ三月間英ノ
 小軍ニ圍マレ遂ニ攻陷セララル時ニ千八百五十

八年九月ナリ得列大帝ハ緬甸ニ徙サレ其二子
ハ殺サル是ヨリ先^キ六月英將ヒウホイーラーハ
カウンプールニ於テビスールノラジヤナ、サ
ヒブノ率キタル叙跋兵ノ為ニ襲ハレ二百ノ英
兵十七日攻圍ニ抗敵セシカ終ニ死者半ニ至リ
殘兵カヲ失ヒテ其堡砦ヲ敵ニ交付シ英ノ居民
六百人ト共ニ恒何ヲ下リテ退クヘキノ約ヲ結
ヘリ然ルニ其許諾スル所ハ詭計ニシテ英ノ退
兵ノ船ニ乗スルヤ不意ニ叙跋兵ノ襲撃ニ遭ヒ

各人皆為ニ殺サル婦人ハ三週間狹隘ナル一室
ニ群集セシカゼ子ヲ一ルヘイヴロツク來援ノ
狀アルニ會シテ忽亦屠戮ノ慘ニ罹リ寸斷セル
屍ヲハ井中ニ投シタリ
叙跋兵ハ久ク英國士官ノ教練ヲ受ケ且精良ノ
武器ヲ帶フルト雖^モ到底英兵ト頓顔スル能ハ
ス其數ヲ以テ之ヲ論スレハヘイヴロツクノ寡
兵ニ勝ル^ト六七倍或ハ十倍ノ多キニ至レ^モ連
戰皆潰ヘテ首魁ノ宮殿ハ英兵ノ佔據スル所ト

ナレリヘイヴロツクハカウンプールニ死者ヲ
 理葬シ進テ烏德ノ首府盧各腦ニ逼ル是レ蕪格
 蘭ノ兵其地ニ於テ叙跋ノ大軍ニ圍マルヲ以
 ナリ爰ニヘンリローウレンスハ巧ニ防禦ノ術
 ヲ竭セシカ攻圍ノ初銃丸ニ中リ空ク貴重ナル
 生命ヲ喪ヘリ此人ハ曩ニ本若ノ靖寧ヲ致シ終
 ニ烏德ノ鎮臺トナリシ者ナリコロ子ルイニング
 リスハロウレンスニ繼テ其兵ヲ指揮シ固守シ
 テ敵ニ當リ未嘗テ必シクモ衰ヘスヘイヴロツ

クハ盧各腦ニ在テ四回敵兵ヲ敗リシカ僅ニ數
 百ノ兵ニ過サルヲ以テ其數次第ニ減シ己ムヲ
 得スレテ一旦其兵ヲ退ケ盧各腦ノ戍兵ハ殆ト
 絶望ノ色ヲ兆セリ然レトヘイヴロツクハ終ニ
 亦援兵ヲ得テ再ヒ恒河ヲ渡リ此地ニ進攻スル
 ヲ以テ城兵ノ勇氣蕪息スルヲ得ルト雖ト敵勢
 尚熾ニシテ頓ニ攻圍ヲ脱スル能ハス此際コリ
 ンカムプベル兵ヲ率キ來援シテ數劇戦スルニ
 會シ攻圍ノ初ヨリ殆ト五閱月ニシテ城兵ノ生

存スル者始テ其救濟ヲ被ルヲ得タリ時ニ千八百五十七年十一月ナリゼ子ラールヘイヴロツクハ其勞動憂慮ノ為ニ身心頗ル困憊シ盧各腦ノ圍ヲ脱セシ數日前ニ死セリ英國ノ女王ハ其蓋忠ニ感シテ從男爵及ヒ養老銀ヲ賜ヒシカ惜哉其使命遲フレテ既ニ及ハサリキ
總督コリン、カムプベルハ盧各腦ノ城兵ヲ救ヒシ後轉シテコウンプールニ赴キ大ニナナサヒ
バノ兵ヲ破リ明年春又其兵ヲ盧各腦ニ進メ終

ニ之ヲ陷レシヨリ叙跛兵ノ亂全ク鎮定ス其夏亦騷亂アリト雖小戰ニ過キサルノニ是ニ於テ英國公會ノ重要ナル決議ヲ以テ印度管轄ノ權ヲ商社ヨリ英王ノ手ニ移シ女王ハ印度鎮將ノ官ヲ命シ加爾各塔ニ駐札シ代テ國政ヲ理セシム又十五名ノ參議官ヲ置テ印度事務宰相ヲ以テ其首班トナシ以テ從來ノ總理局ヲ廢セリ爾來大ニ社會ノ景狀ヲ變シテ上等ノ人民異端ニ迷溺スルノ惡弊ヲ剷除シ英政府ノ德化前時

ニ比スレハ更ニ盛大ナルヲ見ル富貴ノ子弟ハ
英ノ書院或ハ倫敦ノ學校ニ在テ教育ヲ受ケ又
英國ノ女師印度婦女ノ招ニ應シ其家ニ就テ教
ユル者アルニ至ル古來宗教ノ刺簿ニシテ賤ム
ヘキ考説モ學者ノ間ニ其權勢ヲ失ヒ人民漸ク
開明ノ域ニ赴テ種族ノ等級隨テ廢除セリ又鐵
道電信新聞編及ヒ普通學校ノ設アリテ億萬ノ
印度人西國ト自由ニ其思想ヲ通スルニ至レリ
又近世百年ノ間英國ハ東方ニ於テ更ニ廣大ナ

ル一領地ヲ創開シ其重要ナル恐クハ印度領ノ
上ニ出シモ未タ知ルヘカラス濠州ノ沿岸ハ第
十七世ノ初和蘭人ノ探訪ニ係リ其腹地ニ至テ
ハ歐人ノ未タ悉サズル所ナリシカ英ノカピテ
インゴック其南岸ヲ訪ヒシヨリ本國ノ零丁或
ハ罪人ノ為ニ其荒漠未開ノ地ニ就テ居室ヲ營
ミ生計ヲ圖ルノ利便アルヲ見出し終ニ千七百
八十八年一月十一隻ノ船隊世界中最美景ノ稱
アルシドニイ、コーヴ港ニ到着セリ此船ニハ千

人ヲ搭シ流徒人最多ニ居ルト云フ當初百物未
タ備ラス日用ノ需皆別土ヨリ来ル故ニ運送船
ノ失込ニ遭フ毎ニ食糧隨テ缺乏シ空ク餓死ス
ル者アリ其凄慘ノ狀ハ確乎タル新國ノ基礎ヲ
立ル能ハサルカ如シト雖氏幸ニ飢餓ノ患ヲ免
レ生存スル者アリテ殖民漸ク繁盛ヲ致セリ而
シテ此殖民等ハ其罪ニ由テ悉ク民權ヲ失ヒシ
ヲ以テ政府ノ勞役ニ服セサルヲ得サレ氏要ス
ルニ亦重要ナル開路ノ先鋒ト謂ヘシ何トナレ

ハ曠野ヲ墾闢シ道路ヲ造リ橋梁ヲ架シ其他許
多ノ工事ヲ建設セシニ由テ自由遷徙ノ徒ヲシ
テ大ニ其事業ヲ省カシムレハナリ但當初ノ制
古ハ往々智識慈仁ニ乏ク其事業ヲ成ス能ハサ
リシカ千八百十年ヨリ千八百二十一年ノ間制
古マコーレーノ政令寛洪ナルニ由テ罪人改良
シテ善ニ遷ル者多ク殊ニ英國ノ熱鬧市街ニ住
シ飢寒ニ迫リテ罪過ニ陥リシ者ハ生活ノ良圖
ヲ立テント欲シ喜テ此地ニ徙リ其中又選ハレ

テ官職ニ墜ル者アリ
 制台マコーレー退職ノ後三十年間ハ自由遷徙
 ノ民大ニ増加セリ濠州ノ羊ハ毛毳細軟其質ノ
 佳ナル日耳曼或ハ西班牙ノ最美ナル羊毛ニ等
 シク而シテ羊群充斥既ニ數百萬ヲ以テ數フヘ
 シ濠州及ヒ萬地曼關ニ罪人ノ流移既ニ絶ヘシ
 後モ篤實ナル貧民政府ノ助ヲ得テ遷徙スル者
 亦幾千人加之富テ行アル者モ旅行ノ益自由ナ
 ルト利益ノ希望トニ由テ此地ニ移住スル者ノ

多キハ生齒ノ増加十倍ニ踰ルヲ以テ之ヲ知ル

殖民ノ初ニウ、サウス、ウエールス新南維里斯ニ在ル者今分レテ二トナ

ル即南ハ維多利ニシテ北ハクインズランドナ

リ此際萬地曼關南澳大利西澳大利モ亦各國殖
 民經營ノ地トナレリ

澳大利史乘ノ第三期ハ千八百五十一年五月東

南諸州ニ於テ黄金ヲ探得タルヲ以テ特ニ著名

ナリトス爾來人心ノ動搖恰モ狂ノ如ク屬地ノ

景象將ニ衰頽ニ至ラントス農夫ハ其耒耜ヲ棄

テ牧人ハ其牛羊ヲ顧ミス食品ノ貴キ凶歳ノ如ク殆ト得ル能ハサルニ至レリ港内ノ船舶モ官吏水手ノ乗スル者ナク常例ノ諸職業モ一時悉ク止息ス然レモ危害艱苦相繼テ起リ終ニ人民ヲシテ其非ヲ悟ラシムルニ由リ社會ノ景狀其故ニ復シテ再ヒ康寧ナルヲ以テ海外遷徙ノ徒日ニ益々雲集シ此邦ノ交易大ニ殷繁ヲ加ヘリ維多利ノ會城メルボルン麥普尼ハ纔ニ千八百三十七年ノ創建ニ係ルト雖モ現今其人口ハ殆ト二十萬ニ近

ク且大學校ノ設アリニクサウスウチールス新南維里斯ノ古府シドニー悉德尼ハ其人口麥普尼ノ俄ニ増加セシカ如クナラスト雖モ亦大學校アリ且督教主ノ管轄地トナレリ鐵道電信ハ年々ニ其數ヲ加ヘ澳大利及ヒ萬地曼蘭即通稱達斯馬尼タスマニアト倫敦ノ間ヲ聯絡スルニ海底ノ電線ヲ以セリ英國ハ近年ニウヰイランド新西蘭ニ八箇所ノ殖民地ヲ建ルヨリ東半球ニ在ル領地益々廣大ヲ致セリ此三島ノ面積ヲ論スレハ英倫蘇格蘭愛蘭及ヒウエール

スヲ合セシヨリ廣ク且土地ノ富饒ナル氣候ノ健全ナル風景ノ美麗多様ナル皆世界ノ各國ニ讓ラス始テ此國ニ住メル歐羅巴人ハ嘗テ南太平洋ニ航セル捕鯨船ノ逃脱者ナリ而シテ其山林ニ佳木良材アルヲ以テ其利ヲ慕フテ遷徙スル者日ニ益多シ千八百十四年以來英國ノ傳教師此地ニ至リ基督宗ト開化ノ元素トヲマツリス即新西蘭ノ土苗中ニ引入シ之ヲシテ禮義ニ進マシメシヨリ人ヲ食フノ惡俗及ヒ異教ノ弊

ハ倭焉消滅シ現今ハ土人陽ニ基督教ヲ奉セサルハナシ又土人ハ大抵書ヲ讀ミ字ヲ寫シ間學藝ニ邃キ者アリ新聞紙ノ如キモ既ニ其國語ヲ以テ刊行セリ

千八百四十年ニ大島ノ頭目英國女王ニ服屬シテ之ヲ君戴セシカ土地稱謂ノ争ヨリ紛擾ヲ醸シ千八百四十三年ヨリ千八百四十七年ニ至ル迄四年間ノ戰ヲ惹起セリ而シテ近世十年ノ間戰鬪或ハ輟ミ或ハ作ルマツリスノ才智アルト

鳥鎗ニ巧ナルト山嶮ニ城塞ヲ設ルトノ如キハ
 則彼ノ凶猛ニシテ勁敵タル所以ナリ然レ其
 數頓ニ減シ日ナラスシテ歐人獨生齒ノ數ヲ充
 スヤ疑ナシ此島多ク煤炭銅鐵黃金ヲ産スト云
 フ
 其他東海ニ在ル英國ノ殖民ハ全ク人民ノ私為
 ニ屬セリ千八百三十八年ゼイムスブルークハ
 自己ノ快船ニ乘シテ婆羅洲ノ海岸ヲ探訪シ從
 來搶劫ヲ恣ニシテ大ニ印度群島ノ貿易ヲ阻碍

セシ海賊ヲシテ江河灣浦ニ其跡ヲ絶タシメ并
 ニ其蠻民ヲシテ開明ニ進マシムルノ計ヲナセ
 リサラワクノラジヤ其臣下ト戰フヲ見テブル
 ークハカヲ合セテ其叛亂ヲ平ケシヨリ婆羅洲
 支丹ノ信用ヲ得州政ヲ任セラル、ニ至レリ土
 人モ曾テ經歷セシヨリ智アリテ且仁惠多キ政
 ヲ見テ意料ノ外ニ出テ衆心之カ為ニ安慰セリ
 ステブルークハ英國戰艦及ヒ小艇ノ助ヲ得テ
 海賊ヲ剿滅シ而シテ此地方ノ貿易ニ鞅掌セシ

ハ本國政府ヨリ婆羅洲地方ノ攝理ヲ彼ニ命セ
 シヲ以テ知ルヘシ千八百四十七年其近傍ニ在
 ルラボアンノ小島ブルークノ所管ニ歸シ終ニ
 此地ニ於テ煤炭ノ太倉ヲ發見セシヨリ斯ル遠
 海中ニ英國ノ重要ナル海軍場ヲ設ルニ至レリ
 亞細亞ノ近況

支那ハ千八百四十二年以降歐米各國ト條約ヲ
 結ヒ交通ヲ開キシト雖モ數千年來獨尊誇大ノ
 陋習ニ安シ外國ヲ目スルニ蕃夷ノ名ヲ以ス之

ヲ外ニシテハ百方詐計ヲ用キテ屢信ヲ各國ニ
 失ヒ之ヲ内ニシテハ政令苛酷官吏貪墨ナリ故
 ニ内憂外患常ニ絶ヘス

千八百五十六年十月支那官吏ノ廣東ニ在ル者
 其國人ノ罪アル者ヲ搜索スルニ托シ漫ニ英船
 中ニ至リ其旗章ヲ倒破シ強テ乘船ノ人十二名
 ヲ捕縛ス英國公使ハ直ニ廣東省ノ總督葉名琛
 ニ就テ之ヲ論セシニ總督ハ百方分疏シ確乎ノ
 答辭ヲ為サス當時佛人モ亦屢支那人ニ凌辱セ

ラル故ニ英人トカヲ合セ廣東府内ヲ砲撃シ其
 總督ヲ獲テ之ヲ印度ニ押送ス支那人其敵シ難
 キヲ察シ終ニ和ヲ乞フ因テ英佛兩公使天津ニ
 於テ支那政府ト假ニ和議條約ヲ結ヒ今ヨリ一
 年内ニ北京ニ至リ其批准ヲ得ヘキヲ定ム
 千八百五十九年英公使佛公使ト共ニ上海ニ至
 ル支那官吏ハ公使ニ告ルニ天津ノ條約ハ上海
 ニ於テ之カ批准ヲ為ス可シ若シ強テ北京ニ至
 ラント欲セハ陸路ニ經由スヘシ北河ヲ溯ルヲ

許サスト兩國公使ハ其言ノ非理ナルヲ以テ衛
 護ノ兵船ト共ニ北河ヲ溯テ北京ニ進マントス
 支那政府ハ其河口ニ堅牢ノ柵ヲ植テ、以テ船
 ノ航路ヲ阻シ且砲台ヲ修築シテ防戦ニ備フ故
 ニ兩國公使ハ支那官吏ニ何ヲ以テ外國船ノ通
 航ヲ阻止スルヤヲ詰問スレト支那官吏ノ來テ
 答フル者ナシ是ニ於テ兩公使ハ海軍將ニ命シ
 テ強テ河口ニ進マシメ敵砦ヲ襲撃セシカ遂ニ
 之ヲ拔グ能ハサリキ

幾モナク此報ノ歐洲ニ達セシカハ英國政府ハ
支那官吏ノ變詐極リナキヲ惡ミ急ニ二萬五千
ノ兵ヲ發シテ報復ヲ圖ラントス佛國政府モ亦
一萬ノ兵ヲ出ス是ニ於テ英國ハロードエルジ
ンヲ欽差トシ佛國欽差ト共ニ支那ニ赴カシム
斯テ千八百六十年八月英佛ノ兵北河沿岸ノ道
路ヲ修理シ河橋ヲ架シ更ニ進テ太沽ノ堡砦ヲ
陷レ天津ニ赴ク此際英人パークス等數人支那
兵ニ俘獲セラレシカ支那人ノ之ヲ處スル頗ル

殘酷ヲ極メ手足ヲ縛スルニ綱ヲ用テ紮結ノ急
ナル皮肉破レテ焮衝ヲ起スニ至レリ
是時英佛ノ軍ハ僅ニ七千ニ充タサレテ急ニ其
兵ヲ進メテ三萬ニ餘ル支那兵ト八里橋ニ戰テ
大ニ之ヲ破リ更ニ進テ北京ノ城外ニ逼リ守兵
ニ告ルニ若レ明日正晝ニ至リ其城ヲ交付セサ
レハ急ニ攻撃スヘキヲ以ス當時支那帝ハ名ヲ
遊獵ニ托シテ既ニ遼東ニ奔リ恭親王此地ニ在
テ政ヲ攝セシカ北京府民ノ兵亂ニ罹ルヲ憐ニ

遂ニ城門ヲ開キ兩國ノ兵ヲ入ルロドエルジ
 ンハ恭親王ニ告ルニ支那人ノ嘗テ英人ヲ虜獲
 シテ其苛虐ヲ極メ殊ニ之ヲ殺戮セシハ萬國ノ
 公義ニ背クカ故ニ圓明園ヲ破壊シテ其凶殘ニ
 報ユヘク更ニ三十萬テールノ扶助金ヲ出シ殘
 殺セラレシ者ノ親族及ヒ苛虐ノ所置ニ遇フ者
 ニ給與スルニ非サレハ敢テ講和セサルヘキヲ
 以シ遂ニ其兵ヲ遣リ圓明園ヲ焚毀ス支那政府
 ハ國勢ノ危殆ニ瀕スルヲ以テ總テエルジンノ

所為ニ任セ敢テ之ニ抗スル能ハス十月二十四
 日北京ニ於テ和議條約ヲ結ヒ公使ヲ北京ニ駐
 劄セシメ八百萬テールノ軍費ヲ出スヲ約ス佛
 國モ亦畧英國ニ同シキ條約ヲ結ヒ千八百六十
 年十一月英佛ノ兵北京ヲ去ル明年咸豐帝遼東
 ニ阻シ其子同治帝位ヲ嗣ケリ
 廣東省ノ一小村ニ洪秀全ト云フ者アリ家貧ニ
 シテ資ナシ一種ノ神教ヲ創シ愚民ヲ勸テ其教
 ニ入ラシメ且無賴不平ノ徒ヲ嘯聚シテ之ニ説

クニ清ヲ亡シ明ノ餘裔ヲ立ツヘキヲ以ス千八百五十年自天王ト稱シ元ヲ太平ト改メ黨中智勇ノ者ヲ擇ヒ之ニ王號ヲ付シテ兵ニ將タラシム千八百五十一年雲南府ニ據リ明年河南省ノ府鎮ヲ陷レ千八百五十三年南京ノ舊府ヲ降シテ其府民二萬人ヲ屠殺シ其地ヲ以テ京城ト為ス其凶熾日ニ熾ニシテ官兵ノ來討スル者往々敗北ス千八百六十一年進テ寧波ヲ陷レ更ニ轉シテ上海ヲ襲ハントス各國公使之ニ諭スニ其

港ノ外國兵ノ保護ニ係ルヲ以テスレト太平王ハ敢テ其言ヲ容レズ故ニ英佛等各國ノ兵邀擊シテ之ヲ敗レリ爾來支那政府ノ請ニ應シ外國ノ兵官兵ニ加ハル者多ク因テ官兵ハ其勢漸ク振ヒ終ニ千八百六十四年七月浙江ノ總督曾國荃ノ兵南京府ヲ復ス太平王ハ事ノ成ラサルヲ知リ數月前ニ毒ヲ服シテ死シ其喪ヲ秘セリ其子福填城陷ルノ日逃出テ後ニ搜獲セラレテ誅ニ伏ス明年其餘黨悉ク平ク

千八百七十年天津ノ人民其地ニ在ル佛國ノ領事館ヲ襲ヒ領事ヲ首トシ佛人數名ヲ屠殺シ又其病院或ハ寺院ヲ襲ヒ僧尼數十名ヲ殺ス佛國欽差ロシユヰワール支那政府ニ逼リ嚴ニ其罪ヲ論ス政府ハ己ムヲ得ス其暴徒十六名ヲ刎首シ官吏ヲ遠竄シ夥多ノ賠償ヲ納ル千八百七十三年支那帝始テ各國公使ノ謁見ヲ許ス明年十二月帝病ニ罹テ殂シ其從弟位ヲ繼キ元ヲ光緒ト改ム

叙利亞ノ住民ハ分テ二種トス一ヲマロニートト云フ皆耶蘇教ヲ奉ス一ヲドリューズト云フ皆回教ヲ奉スマロニート種ハ天性温和ニシテ農業ヲ勉ムレドリューズ種ハ兇猛ニシテ戰鬥ヲ好ム故ニ數百年來互ニ相敵視セリ千八百六十年ノ末ドリューズ種彌其兇猛ヲ逞フシマロニート種ヲ殲滅セント欲シマロニート種ノ村落ヲ侵掠シテ其家屋ヲ焚燒シ老幼男女ノ別ナク之ヲ斬殺スマロニート種ノ纒ニ免ルヲ得ル者皆海

濱ニ遁ル土國政府兵ヲ遣テ之ヲ討スト雖兵士等素ト皆ドリューズ種ト其法教ヲ同フスルヲ以テ却テカヲ其徒ニ戮セ倍殺戮ヲ恣ニス歐洲各國ノ人民此報ヲ聞キ切齒扼腕セサル者ナク殊ニ佛國ノ如キハ叙利亞地方ニ在ル耶蕪教徒ヲ保護スヘキ任アルヲ唱ヘ兵ヲ出シテ兇徒ヲ討セント欲ス乃之ヲ英國ニ謀ル英國政府其議ニ同シ千八百六十年互ニ條約ヲ結ヘリ斯テ八月中浣佛兵叙利亞ニ着スドリューズ種其

敵スヘカラサルヲ察シ去テ山谷間ニ竄ルマロニト種ハ皆佛營ニ來リテ救護ヲ乞フ佛軍給スルニ衣服食料ヲ以スマロニト種因テ其郷里ニ歸リ纔ニ故土ニ安スルヲ得タリ後歐洲ノ諸大國委員ヲ發シテ叙利亞地方ノ制度改正ヲ討論セシメ終ニ佛國ノ說ニ從ヒ此地方ヲ合シテ一州トナシ鎮台一名ヲ置テ之ヲ統括セシメ其職ニ就ク者ハ耶蕪教徒タルヘキヲ定ム是ニ由テ叙利亞ノ動亂全ク鎮定セリ

太古蘇士ノ地方ニ溝渠アリテ以テ紅海地中海ノ水ヲ相通セシメシハ史乘中ニ散見シテ其遺跡尚存スレド奈何セン渠道既ニ廢殘シテ復用ユヘカラス降テ近世ニ及テ拿破崙一世兵ヲ率テ埃及ニ至リシ時更ニ溝渠ヲ鑿開セント欲シ量地家ニ命シテ之ヲ測ラシム其人誤テ兩海ノ水面其高サ大ニ相異ナルヲ稟告ス故ニ其議寢テ行ハレス軌迄ニ至リ佛人フエルヂナンドレセツプト云フ者鑿渠ノ志ヲ懷キ埃及ノ副王

モハメツト、サイドニ説クニ其業ノ大益アルヲ以ス終ニ其説ノ相合セシヨリレセツプハ先ツ一大會社ヲ創シ廣ク歐洲各國ノ金ヲ募リ千八百五十四年埃及政府ヨリ鑿渠ノ免許及ヒ同國ノ兵士ヲ其業ニ使用スヘキ許可ヲ得尋テ千八百五十九年三月始テ鑿渠ノ業ニ着手シ千八百六十二年十一月地中海ヨリチサム湖ニ至ル迄大渠ヲ穿テ繼テ尼羅ノ河水ヲ導ク可一渠ヲ穿ツモハメツト、サイド殂スルニ會シ嗣君穿渠

ノ業ヲ悦ハス殊ニ英人ハ原ト此舉ヲ忌惡セシ
故ニ埃及政府ヲ唆動シテ其兵士ヲ使役スルノ
約ヲ廢セシム然レモレセツプハ敢テ其志ヲ墜
サス人力ニ代ルニ巨大ノ機械ヲ用キ數歲ヲ出
テスレテ全ク其功ヲ竣フ千八百六十九年十一
月七日大渠開航ノ式ヲ行ヒ始テ地中海ノポル
トサイド港ヨリ紅海ノ蘇士港ニ通航スルヲ得
タリ是實ニ歐洲ノ東洋諸國ト交通ノ便ヲ開キ
シ近世ノ一大事業ナリ

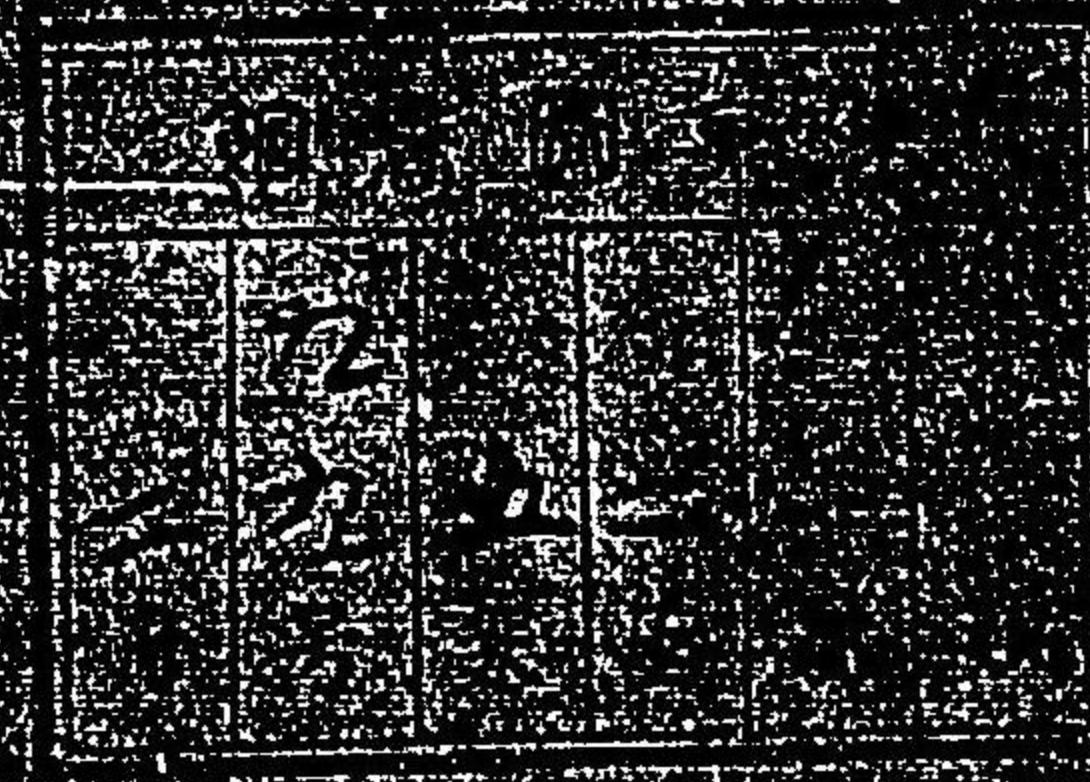
續西史綱紀卷一終

1942

[REDACTED]

1942

2
99



003696-001-1

2-99

続西史綱紀

保田 久成/編訳

M12

ACD-0316

